

BUDŌ

NEWS

今月のニュース

第 67 回全日本男子弓道選手権大会・第 49 回全日本女子弓道選手権大会



平成28年度
全国都道府県対抗銃剣道大会



第12回国際合気道大会



天皇盃第67回全日本男子弓道選手権大会
皇后盃第49回全日本女子弓道選手権大会

天皇盃第67回全日本男子弓道選手権大会・皇后盃第49回全日本女子弓道選手権大会が、9月16日～20日の5日間、全日本弓道連盟中央道場（明治神宮武道場至誠館第二弓道場）で開催され、全国から参加した男子108名、女子105名が各々正射必中を目指した。

男子は、小原裕幸^{おばらひろゆき}錬士六段（島根）が歴代2位タイとなる32歳の若さで初優勝。最高得点賞は昨年優勝の土佐正明^{どさのあきら}教士八段（千葉）が2年ぶり5

回目の獲得となった。

女子は、齊藤美智子^{さいとうみちこ}教士七段（静岡）が11年ぶり2回目の優勝。また、最高得点賞についても齊藤が2年連続の受賞となった。

競技方法は男女共通。予選は各自2回（4射）を行い、4射2中以上を条件とし、採点制により上位20名を決勝進出とした。決勝は、各自5回（10射）を行い、的中数により順位を決定した。

天皇盃初優勝

小原裕幸 32歳 錬士六段（島根）

男子

9月16日／18日

16日に開会式・矢渡が行われ、17日に108名が参加して予選が行われた。昨年準優勝の小原裕幸（島根）は4中で1472点の5位で予選通過。昨年の15位通過より大きく前進した。昨年優勝で予選2位通過の土佐正明（千葉）は、当初、盃を返還するだけで出場は考えていなかったという。しかし、せっかく開会式に参加するのならば大会に出場しようと決意し参加。そのような経緯で臨んだ予選では、3中1480点となり、最高得点賞を獲得した。

18日の決勝、しとしとと雨が降る中、大勢の観客が詰めかけて試合は開始された。2回目（4射）が終了して、小原は1射目を外し3中。4中は土佐と常光祐一（高知）、そして71歳で初出場の西崎明伸（埼玉）に絞られる。雨が激しさを増す中の3回目（6射目）、ここで土佐が失中し、場内からは溜息が漏れる。西崎、常光も失中となり、5中が土佐、高橋文彦（福島）、小原、川名修徳

（宮崎）、西崎、常光の6名。試合は混戦模様となった。7射で小原、常光は的中。土佐、高橋、川名、西崎が相次いで外してしまふ。4回（8射）が終わり、7中は小原、常光の2名。両名による争いとなった。

小原の9射目は的の中心近くに中り、観客からは歓声があがる。次いで常光も9射目を中てる。場内の視線が集中する小原の10射目。特にプレッシャーは感じなかったという小原、身体は微動だにせず冷静に矢を放つ。その矢は更なるの中心近くに中り、場内からは大きな拍手がわいた。続きたい常光だが、10射目を失中し、この時点で小原裕幸の初優勝が決まった。32歳での優勝は平成4年の増渕敦人（当時29歳）に次ぐ、歴代2位タイとなった。

2位から5位を決める遠近競射が8中の多湖賢治（三重）、朝田晋輔（静岡）、川名、西崎、常光で競われ、2位に常光、3位に多湖、4位に西崎、5位に朝田がそれぞれ入賞した。

立順	氏名	所属	予選			決勝										的中	遠近競射	順位
			的中	得点	順位	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩			
1	坂本 達雄	青森	2	1457	9	×	×	×	○	○	○	○	×	○	×	5		
2	細川 孝夫	福井	4	1466	8	○	×	×	×	○	○	○	×	○	○	6		
3	土佐 正明	千葉	3	1480	1	○	○	○	○	○	×	×	○	○	×	7		
4	鹿野 伸一	東京	3	1474	4	○	×	○	×	×	×	×	×	×	○	3		
5	平澤 敏弘	長野	4	1443	14	×	×	○	○	○	○	○	○	×	○	7		
6	高橋 文彦	福島	2	1436	20	○	○	○	×	○	○	×	○	○	×	7		
7	多湖 賢治	三重	3	1469	7	×	○	○	×	○	○	○	○	○	○	8	2	3
8	小原 裕幸	島根	4	1472	5	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	9		1
9	佐々木光彦	秋田	4	1478	2	○	×	○	×	○	×	×	×	○	○	5		
10	朝田 晋輔	静岡	2	1437	18	×	○	○	×	○	○	○	○	○	○	8	4	5
11	佐藤 昌仙	岩手	3	1447	11	○	×	○	×	×	○	×	×	○	○	5		
12	高野 直行	新潟	3	1438	17	×	○	○	○	×	○	×	○	○	○	7		
13	川名 修徳	宮崎	3	1472	6	○	○	○	×	○	○	×	○	○	○	8	5	
14	増渕 敦人	栃木	2	1443	15	○	×	○	○	○	×	×	○	○	×	6		
15	段 琢也	宮崎	4	1446	12	×	○	○	○	×	○	○	○	○	×	7		
16	西崎 明伸	埼玉	3	1445	13	○	○	○	○	○	×	×	○	○	○	8	3	4
17	荒川 博行	北海道	2	1452	10	×	○	×	○	○	○	○	×	○	○	7		
18	常光 祐一	高知	3	1439	16	○	○	○	○	○	×	○	○	○	×	8	1	2
19	山中 敬雄	大阪	3	1436	19	×	×	○	×	○	○	×	×	×	○	4		
20	才川 義昭	大分	4	1476	3	×	○	×	×	×	×	○	○	×	○	4		



最高得点賞＝土佐正明教士八段（千葉）



第2位＝常光祐一教士七段（高知）

入賞者喜びのコメント

◎優勝Ⅱ小原裕幸^{おばらひろゆき}錬士六段（島根）



です。まずは、来年、全日本選手権で2連覇を目指して頑張りたいと思います」

○2位Ⅱ常光祐一^{つねみつゆいち}教士七段（高知）



「おかげさまでという感じです。一緒にうちの道場で練習してくれた友人たち、

「一本目で外してしまい、今年も優勝は難しいのかなと思い、始まった決勝でした。そのまま射を続け、最後まで引き切ることができ、この優勝という結果につながったのかなと思います。決勝9射目になり、あと一射しか引けないということになりましたので、もう一回、出来ることだけは精一杯やろうと臨みました。特にプレッシャーは感じませんでした。10射目が的中したときの歓声は一瞬何の歓声なのか分らなかったです。最後にいい射となり、終えることができ、よかったと思います。今回、初めて優勝できましたが、この一回で終わるのではなく、これからも全日本選手権大会での優勝、そして最高得点賞を目標にしていきたい」

▽3位Ⅱ多湖賢治^{たごけんじ}教士七段（三重）



「3位に入賞することができ、素直に嬉しいです。全日本大会では、常に無心で

挑戦させていただいております。こ



第5位＝朝田晋輔錬士六段（静岡）



第4位＝西崎明伸教士六段（埼玉）



第3位＝多湖賢治教士七段（三重）



決勝、一手競射を行う選手たち



18日の決勝には、多くの観客が詰めかけた

▽5位Ⅱ朝田晋輔錬士六段（静岡）
「5人遠近競射に入り、今回は2位から5位で4人しか入賞できない中、今回はじめて入賞させていた

だと思つて一生懸命やりました」
やっていることを淡々とできたら良いなという気持ちでやつておりました。私は、来月72歳になりますが、今回が初出場でした。冥土の土産というか、これ以上のものは出ないと思ひますので、本当にこれが最後だと思つて一生懸命やりました」



「決勝で遠近（競射）に残れるとは私は全く期待しておりませんでした。日頃

▽4位Ⅱ西崎明伸教士六段（埼玉）

の大会では全国の皆さまと一緒に弓が引けると、会長を初めとして、諸先生方に自分の弓を見ていただいで、自分の努力を披露することができます。そういうことも含め、一生懸命やらせていただきました。技術的にも精神的にも、もつと磨きをかけて、動じない心と動じない射ができるように、さらに精進したいと思ひます」

「最高得点賞となることができ、嬉しいです。昨年の予選では、的中数も2となり、最高得点賞を逃してしまいました。今年は目標にできてきたから、2年ぶりに取ることができ、本当に嬉しいです。決勝では、腕を負傷しているものだから、思うように力が出せませんでした。残念です。来年もこの大会には出場したいと思ひます。もつともつと射の内容を充実させて、真・善・美となるような射を目指したいと思ひております」



◎最高得点賞Ⅱ土佐正明教士八段（千葉）

くことができませんでした。大きく伸び伸びと離れが出るまで待つという射をずっと心掛けてやった結果、的に入ることができました」

皇后盃

齊藤美智子

教士七段
(静岡)

が

11年ぶりの優勝
最高得点賞



女子

9月18日、20日

18日に開会式・矢渡が行われ、19日に105名が参加して予選が行われた。昨年最高得点賞の齋藤美智子（静岡）は、4中1464点で2年連続の最高得点賞受賞となった。昨年優勝の小牧佳世（京都）は、4中1452点で予選2位通過となった。

20日の決勝は、台風の接近と秋雨前線発達の影響で激しく雨が降るなかでの競射となった。

1回目（2射）が終わり、過去4回優勝経験のある齋藤往子（東京）は2射目を失中、小牧は2射とも外してしまう。2回目終了し、4中は森山久子（静岡）、西田郁子（福島）、齋藤美智子、山本あけみ（福井）の4名となる。

雨足が激しさを増すなか、それまでの中を続けていた西田が7射目を外し、齋藤、山本が8射目を失中してしまう。7中が齋藤、西田、山本の3名、6中が5名で、最後の5回目（9射・10射）を迎えた。

9射目、西田、齋藤は的中となる

が、山本は外してしまう。齋藤と西田の優勝争いとなった10射目、ともに的中を重ねて勝敗はつかず。そのまま2名による射詰競射へと移行する。1回目、両者ともまさかの失中。注目の射詰競射2回目は西田が続けて外してしまう。この時、動揺していたという齋藤。しかし、これを的中させ、会場からは歓声が上がった。11年ぶりとなる2回目の優勝を果たした。最高得点賞も獲得し、嬉しいダブル受賞となった。

3位・4位決定のための8中者による遠近競射では、初出場の前田かおり（東京）と三澤京子（神奈川）が対戦。初めに三澤が真ん中近くに中てた。前田の矢は、さらに真ん中近くにある。前田は初出場でも3位入賞となった。

5位決定のための7中者による遠近競射では、齋藤往子、森山、山本、越能公子（石川）、伊藤紀美子（三重）で競われ、山本あけみが5位に入賞を果たした。

立順	氏名	所属	予選			決勝										的中	射詰	遠近競射	順位
			的中	得点	順位	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩				
1	齋藤 往子	東京	2	1430	9	○	×	○	○	○	○	×	○	○	×	7		2	
2	古賀 葉子	宮城	2	1414	19	×	○	×	○	○	×	×	×	○	×	4			
3	月輪由紀子	福井	3	1425	13	○	×	○	○	○	×	○	×	○	×	6			
4	三浦真由己	北海道	3	1428	10	○	×	×	○	×	×	×	×	×	×	2			
5	池田 真弓	東京	4	1414	17	×	○	○	○	×	×	×	○	○	○	6			
6	川口 妙子	京都	4	1431	7	×	×	×	×	×	○	○	×	×	○	3			
7	亀山 節子	大分	3	1431	8	×	×	○	○	×	×	○	○	×	×	4			
8	森山 久子	静岡	4	1431	6	○	○	○	○	×	×	○	×	○	○	7		2	
9	三澤 京子	神奈川	3	1426	11	○	○	×	×	○	○	○	○	○	○	8		2	4
10	清水 繁子	埼玉	2	1415	16	×	○	○	○	○	○	○	×	×	×	6			
11	西田 郁子	福島	4	1441	3	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	9	×	×	2
12	齋藤美智子	静岡	4	1464	1	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	9	×	○	1
13	高井 幸子	福島	3	1439	4	○	×	×	○	×	○	○	○	×	○	6			
14	山本あけみ	福井	3	1425	12	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	7		1	5
15	中村 繁子	青森	3	1414	18	×	×	×	○	×	○	×	×	×	○	3			
16	越能 公子	石川	4	1437	5	○	○	○	×	○	×	×	○	○	○	7		2	
17	伊藤紀美子	三重	2	1421	15	×	○	○	○	○	○	○	×	○	×	7		2	
18	星 登喜枝	宮城	2	1411	20	○	○	×	○	○	×	×	○	○	×	6			
19	小牧 佳世	京都	4	1452	2	×	×	○	×	○	×	○	○	○	○	6			
20	前田かおり	東京	3	1424	14	○	×	○	○	○	○	○	×	○	○	8		1	3



第3位＝前田かおり錬士六段（東京）



第2位＝西田郁子教士七段（福島）

入賞者喜びのコメント

◎優勝・最高得点賞Ⅱ

さいとうみちこ
齊藤美智子教士七段（静岡）



ことが一瞬よがり、緊張しました。選手権では若い方の出場が多くなってきました。若い選手の育成にも努めていけたらと考えております。座右の銘は鈴木三成先生から教えていただいた「百錬自得」です。この言葉を道場に掲げて稽古を重ねております」

○2位Ⅱ西田郁子教士七段（福島）
にしだいくこ



「引き切れたことに感謝しております。自分の中で課題であると思っていたことを意識して10射引き切ることができました。しかし、決勝射詰の時、自分の弱さが出てきましたので、またこれから稽古していかなければと考えております。この大会に向けて、自分の射の弱点を修正してきましたが、大会の直前に変えたいと思うところがでてしまいました。そこを修正しながら行っておりました。ま

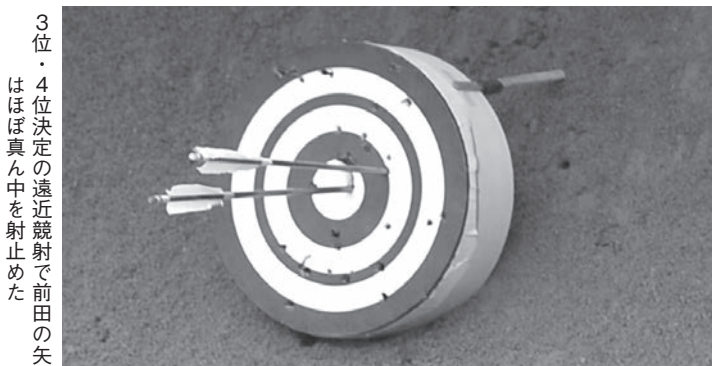
「自分でもとてもビックリしております。決勝の10射では、西田選手が中てていたので、自分がいつ崩れるのかと緊張しながら行っていました。射詰競射1回目では、失中して固まってしまいました。2回目も動揺していましたが、なんとか中てることができ、11年ぶりの優勝となりました。嬉しいですが、雨天での競技でも自身の射には影響ありませんでした。こんな雨のなか、友人たちが応援のため駆けつけていただき、感謝しております。また、2年連続の最高得点賞となり、驚いております。予選で引いている最中にもその



最終日、激しい雨の中での試合となった



第4位＝三澤京子教士六段（神奈川）



3位・4位決定の遠近競射で前田の矢はほぼ真ん中を射止めた



第5位＝山本あけみ錬士六段（福井）

た、同じ福島先生に励ましていた
だき、心強く感じました。とにかく
自分の射にだけ集中しました。今後
はもっと気持ちを強く持ち、自分の
思う射ができるような弓引きになれ
たらと思います」

▽3位Ⅱ前田まえだかおり錬士六段（東京）



「初めての出場です
ので、挑戦する気持
ちで臨みました。そ
して楽しく引いた結

果、決勝に出られたことでも光栄な
のに、3位に入賞でき、大変嬉しく
思っております。最後の遠近競射で
は、三澤選手が中てられましたが、
自分のことに集中しようと思い、引
きました。今回は気持ちを切り替え
て、いつでも挑戦者のつもりで少し
でもステップアップしながら、大き
な大会を目指したいと思います」

▽4位Ⅱ三澤京子みさわきょうこ教士六段（神奈川）

「気分わないで、今できることを一
生懸命やりたいと思って臨みまし
た。前回の大会で4位だったので、



今回は一つ上を目指
そうと思っていたで
すが、また同じ4位
でした。ただ、教え

ていただいた先生のご指導があつ
て、また家族や協会の人たちの応援
があつてここまで来られたので、そ
れは本当に嬉しいです。直前は調子
が良くなかったのですが、気分わずに、
自分の弓を引くことをだけを思って
臨みました」

▽5位Ⅱ山本やまもとあけみ錬士六段（福井）



「率直に嬉しいです。途中で皆中
です。途中まで皆中
でしたが、気持ちの切
り替えがうまくでき
なかつたです。遠近競射は何も考え
ずに臨みました。とにかく最後だ
け、最後の一本を引かせていただけ
るんだなと思って引きました。来年
も、この大会に出場できるように
日々精進していきたいと思っていま
す」

好評発売中



四六判・上製・484 頁

国際武道大学教授

松尾牧則

(まつお まきのり) 著

弓道

その歴史と技法

弓矢の発生から日本における弓術の発達、技法の発展の歴史を追いながら概観し、また、世界の弓術の数々も紹介。現代の弓道の課題や射法についても踏み込んだ、弓道研究の第一線に立つ著者渾身の一書。巻末には、五百冊以上に及ぶ参考文献や、人名索引・事項索引を掲載。弓道のみならず、武道研究者必携の書。

目次

- 第一章 弓矢の発生と世界の弓術
弓矢の発生と性能向上の工夫／世界の弓矢と射法／W T A Fにみる世界の弓術
 - 第二章 日本の弓矢と弓術
日本の弓矢の特性——初期の弓矢／日本弓の変遷と特徴ある形状／日本の矢と弓矢関連具／レクリエーション、儀式としての弓術／歩射と騎射／弓矢の誉
 - 第三章 弓術流派と目的に応じた射術
武術の分化と伝達様式の整備／日置弾正と勸進的の流行／日置弾正正次の肖像と技法／弓術諸流派の技法と伝承／大和流弓術とその伝達様式／三十三間堂通し矢の誉——堂射の隆盛と弓具・技法の工夫／「五射六科」五射の実践／「五射六科」六科の教養／弓術稽古の意義と心得
 - 第四章 弓術から弓道へ
弓術の衰退と命脈——明治時代の弓術／「弓術」から「弓道」へ——大正・昭和初期の弓術／昭和初期の戦中の弓道／戦後の弓道復活と連盟組織
 - 第五章 現代の弓道と将来展望
現在の弓道連盟と競技・審査／新素材の弓具／弓具・服装・施設／学校教育における弓道／現代弓道の体系化された技法
①／現代弓道の体系化された技法② 射法八節の要点／弓道——その将来展望と課題
- 参考文献・索引



編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本

武道の全容をこの一冊に集大成！



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)

『日本の武道』の英文版(DVD付)



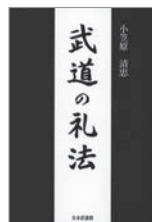
BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット

(B5判・上製・DVD付・336頁)

武道における礼法を小笠原流宗家が直々に指南



武道の礼法

弓馬術礼法小笠原教場三十一世宗家

小笠原清忠 著

(四六判・上製・278頁)

武道をわかり易く描いた教養マンガ



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

(B5判・並製・236頁)

希代の弓人阿波研造の人物伝



霊箭 阿波研造物語

小学校教諭

馬見塚昭久 著

(四六判・上製・320頁)

日本人が拠り所としてきた価値観を詳説



日本の元徳

東京大学大学院教授

菅野 覚明 著

(四六判・上製・334頁)

『五輪書』などの代表的な武道伝書を詳解



武道伝書を読む

天理大学教授

湯浅 晃 著

(四六判・上製・348頁)

著者の半生をたどり、弓道の魅力に迫る



弓道 その魅力

山口大学名誉教授

岡村豊太郎 著

(四六判・上製・272頁)

子どもを育む武道の教育力を詳説



武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

(四六判・上製・410頁)

武道の文化的・伝統的な事柄を解明



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

(四六判・上製・370頁)



鹿島新當流剣術

第7回鹿島神宮奉納 日本古武道交流演武大会 武神を祀る鹿島神宮で 古武道 36 流派が伝統の技を披露

第7回鹿島神宮奉納日本古武道交流演武大会（主催Ⅱ日本武道館・日本古武道協会）が、10月2日、武神を祀る鹿島神宮（茨城県鹿嶋市）で開催され、全国から集まった古武道36流派が奉納演武を行った。

演武大会の開催された10月2日は早朝より日差しが暖かく、天候に恵まれた一日となった。本大会には、過去最多36流派154名が参加して開催された。

大会は9時30分に各流派の代表者が昇殿参拝を行い、全員で記念撮影を行った後、午前10時に開会。開会宣言、国歌斉唱に続いて、松永光日本武道館会長（日本古武道協会会長）が主催者挨拶を行った。

「日本の国の伝統文化で最も優れているのは武道文化であると思います。日本が誇るべき武道文化というものを社会の人たちにお示しすることとは大変意義のあることです。日本という国が益々素晴らしく、国民の皆様が幸せな国になるようにしてゆきたいと思っております。今後とも武道の発展のためにご協力を賜るようお願いいたします」



昇殿参拝



鹿島神宮大鳥居



集合写真



錦織孝一
鹿嶋市市長



鹿島則良
鹿島神宮宮司



松永 光
日本武道館会長

次に、錦織孝一鹿嶋市市長が祝辞を述べた。
「このように県内外から多くの方においでいただきまして第七回鹿島神宮奉納日本古武道交流演武大会を開催できることをお慶び申し上げます。鹿嶋市は、鹿島神宮をはじめとして、非常に歴史、文化、伝統の豊かな、自然に恵まれた地域だと自負しています。そして、武の神である武甕槌大神を祀る、この鹿島神宮の神前に演武者の方々の日頃の成果を

奉納していただければありがたいと思っております」

次に、鹿島則良鹿島神宮宮司から「鹿島神宮の神様、武甕槌大神様もこの大会を楽しみにしておられると思います。稽古という言葉は古くから伝わっているものを自分が身につけるといってくださいます。今日演武をご披露いただける皆様には、古くから伝わっている技を次の世代に伝え、古武道がこれから先も日本の国に残っていくようにしていただきたいと思っています。見学に来られた方もゆつくりとご覧ください」と歓迎の言葉が述べられ、開会式は終了した。

演武は社殿前に設えられた特設演武場で行われ、演武始めは、地元鹿島の鹿島新當流剣術が務めた。その後、全国から集まった35流派の演武が順に披露され、激しくも洗練された技の数々が多くの観客を魅了した。午前10時から始まり、約4時間半続いた演武会を天真正伝香取神道流剣術が締め括った。

最後に、山田重夫日本古武道協会理事・事務局長が閉会宣言を行い、大会は盛会の裡に幕を閉じた。

36 流派が古武道の精髓を武神に奉納



天然理心流剣術



柳生新陰流兵法剣術



関口流抜刀術



大東流合気柔術 琢磨会



卜傳流剣術



無雙直傳英信流居合術



田宮流居合術



琉球王家秘伝本部御殿手



兵法タイ捨流



鐘捲流抜刀術



大東流合気柔術



當田流剣術



天道流薙刀術



沖縄剛柔流武術



鞍馬流剣術



気楽流柔術



神道夢想流杖術



立身流兵法



為我流派勝新流柔術



心形刀流剣術



伯耆流居合術



澁川流柔術



尾張貫流槍術



心月無想柳流柔術



直心影流薙刀術



北辰一刀流剣術



荒木流拳法



無比無敵流杖術



荒木流軍用小具足



長谷川流和術



柳生心眼流體術



神道無念流剣術



宝蔵院流高田派槍術



天神真楊流柔術



天真正伝香取神道流剣術

【出場流派・演武者】

- ① 鹿島新當流剣術 (橋本大、今井淳也、横尾廣美、岡見安宏、畳屋敏治)
- ② 兵法タイ捨流 (上原エリ子、山本隆博、井上義一、野中修二)
- ③ 心月無想柳流柔術 (八島和雄、奥村宗一郎)
- ④ 沖繩剛柔流武術 (上原米和、藏元雅二)
- ⑤ 當田流剣術 (竹内文隆、神亮太、齊藤泥樹)
- ⑥ 宝蔵院流高田派槍術 (美馬博幸、西本昌永、松井典夫、加藤了嗣)
- ⑦ 荒木流拳法 (菊池邦光、永田仁志、細野桂一、鈴木崇史)
- ⑧ 関口流抜刀術 (米原亀生、中山洋一、上原征二、本庄弘幸、中島健志)
- ⑨ 直心影流薙刀術 (福岡輝美、阿部妙子)
- ⑩ 氣樂流柔術 (川島輝之、大塚良太郎、船田清)
- ⑪ 卜傳流剣術 (小山秀弘、小山隆秀)
- ⑫ 澁川流柔術 (吉野明嗣、五嶋有気)
- ⑬ 伯耆流居合術 (大窪敏明、吉岡勝子、桑波田秀祐)
- ⑭ 尾張貫流槍術 (横地浩紀、森治紀、神原会弥、新小田次徳、山内一統、中村武靖)
- ⑮ 鐘捲流抜刀術 (橋原正士、俣野勝美)
- ⑯ 大東流合気柔術琢磨会 (川辺武史、西谷修、高梨智子、阪谷一広、三宅末弘、森田寛)
- ⑰ 心形刀流剣術 (小林強、振角卓哉、伊東大輔)
- ⑱ 琉球王家秘伝本部御殿手 (中宮誠、鈴木佳術、片山修、加藤慎一、島海真)
- ⑲ 鞍馬流剣術 (柴田章雄、東山誠、吉田稜寛、松井康一、山本茂夫、水野正太郎)
- ⑳ 柳生心眼流體術 (梶塚靖司、小林茂雄、吉岡一紀、藤澤勝也)
- ㉑ 柳生新陰流兵法剣術 (柳生耕一、嚴信、竹内孝幸、洲上俊顕、寺田裕昭、星川宣禎、葭谷努)
- ㉒ 大東流合気柔術 (近藤昌之、古澤隆明、石井勇一、トゥルーデル・マーク、池嶋勝則)
- ㉓ 田宮流居合術 (妻木達夫、小野信義、清水新也、山田千代和、山口隆一、吉池映治)
- ㉔ 荒木流軍用小具足 (豊田良樹、千葉明、片桐克彦、河野真一)
- ㉕ 無比無敵流杖術 (根本憲一、唯之、安二郎、大竹敏夫、斎藤幸生、久野周也)
- ㉖ 立身流兵法 (加藤紘、加藤敦、菅家啓一、圖司行克、山崎恒弥、渡辺紳一)
- ㉗ 神道夢想流杖術 (増淵徳造、関展秀)
- ㉘ 長谷川流和術 (桑原巡、倉田勝己、逸見彰一)
- ㉙ 北辰一刀流剣術 (高山陽好、上田忠夫、兼子勝喜、杉田菜奈美)
- ㉚ 為我流派新流柔術 (根本憲一、唯之、大和久正幸、村木浩治、沢幡伸男、渡邊文男)
- ㉛ 天然理心流剣術 (常田貞行、平本輝彦、野崎絹子、須田英宏、時田由記)
- ㉜ 天道流薙刀術 (木村恭子、小野由記子、顯原和代、野崎恵美、細井優子、木村有里)
- ㉝ 天神真楊流柔術 (柴田孝一、柴田俊充、阿部岳春、今野賢太、松浦富士雄、水野真)
- ㉞ 神道無念流剣術 (小川武、萩崎昭、土屋正則、高田一男、玉根純也)
- ㉟ 無雙直傳英信流居合術 (藤井勝子、野口富久子、尾形明夫、清水延子、小島恵子、金景徳)
- ㊱ 天真正伝香取神道流剣術 (大竹信利、京増重利、荒野祥司、成毛弘、櫻井俊也)

日本古武道交流演武大会に先立ち、術技交流研修会・懇親会を開催

術技交流研修会は大会前日の午後3時30分より、鹿島神宮武徳殿で開催された。

全体説明の後、演武者は2つに区切られた道場で、2流派ずつ順番に演武を行い、翌日に向けて動きを確認した。参加者は、自分の流派のみならず、他流派の演武の技や動きの

一挙手一投足を熱心に見守り、互いの技術を学んだ。術技交流研修会は約2時間に亘って行われ、終了後、会場を移して懇親会となった。

懇親会は午後6時30分より始まり、会には演武者をはじめ、地元協力団体、大会事務局の計188名が出席した。

始めに臼井日出男日本武道館理事長が主催者を代表して挨拶を行い、市村修鹿嶋市副市長が祝辞を、鹿島則良鹿島神宮宮司が歓迎の言葉を述べた。

引き続き、鹿島神宮敬神婦人ともえ会による清興舞踊「日本の祈り」が披露され、懇親会出席者を美しい舞で魅了した。

その後、鏡開きとなり、臼井理事長、市村修副市長、吉川常隆鹿島新當流宗家、鹿島則良鹿島神宮宮司、三藤芳生日本武道館理事・事務局長の5名が掛矢で、鹿島神宮提供の鏡樽を打ち割った。そのまま三藤理事・事務局長の発声で乾杯が行われ、歓談となった。

歓談の途中には、出席者が壇上に上がって翌日の大会について抱負を述べる時間が設けられ、各々が演武会や準備に関する意気込みや期待を述べた。最後は内田康介日本武道館事務次長が中締め挨拶と、翌日の大会の成功を願って万歳三唱を行い、閉会となった。



術技交流研修会



臼井日出男日本武道館理事長



市村修鹿嶋市副市長



万歳三唱



鏡開き

好評発売中

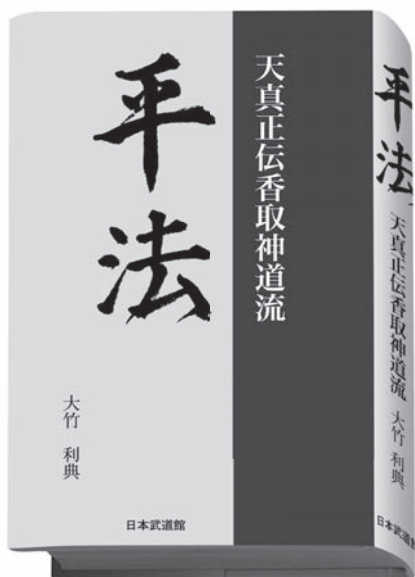
平法

天真正伝香取神道流師範

大竹利典 著

天真正伝香取神道流

近世剣術の源流として知られる天真正伝香取神道流の全伝を受け継ぐ著者が、その膨大な武と知を語る。



(四六判・上製・296頁)

香取神道流の歴史、剣術・居合術・薙刀術・手裏剣術などの武術、方術・築城術などの遁甲術や軍学兵法を、伝書を基に紹介。
さらに、七十年近い修行人生を振り返り、武を志す全ての者に必要な「平法（へいほう）」の思想について語る。

目次

- 序章 香取神宮御由緒
 - 第一章 歴史篇
 - 第一節 経津主大神の真伝、「天真正伝香取神道流」
 - 第二章 修行篇
 - 第一節 入門
 - 第二節 林先生に師事
 - 第三節 香取神道流最初の異国の門弟
 - 第四節 流祖生誕六百年記念祭
 - 第三章 技術篇
 - 第一節 剣術
 - 第二節 居合術
 - 第三節 棒術・薙刀術、槍術、手裏剣術
 - 第四節 柔術
 - 第五節 忍術
 - 第四章 軍学兵法篇
 - 第一節 遁甲術
 - 第二節 刀剣と密教
 - 第五章 思想篇—全ての修行者へ
 - 第一節 修行者の心得
 - 第二節 兵法は平法なり
- 平和を願う偉大なる教え



編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



BUDŌ:

THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット

(B5判・上製・DVD付・336頁)



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

(四六判・上製・370頁)



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

(四六判・上製・370頁)



(B5判・上製・箱入・462頁)

古流武術研究家
横瀬 知行 著

日本の古武道

直接取材による2000枚の写真と豊富な資料で古流の全貌を紹介！

日本の古武道には長い歴史と伝統があり、流祖に始まる一子相伝の脈々たる生命の大河を貫く知恵と経験が一つの見事な体系となって現代に伝えられている。



植芝守央道主による講習

第12回国際合気道大会

新設された高崎アリーナで 講習会に世界中から 2000 名が参加

第12回国際合気道大会（主催＝合気会・国際合気道連盟（IAF））が9月27日～10月2日の6日間、高崎アリーナにおいて開催された。4年に1度の開催となる国際合気道大会。本年は、高崎市の協力のもと、新設された高崎アリーナのオープニングセレモニーとして開催された。

大会では、初日から5日間は、高崎市役所にて国際会議、高崎アリーナにて国内外の師範による講習会を実施。最終日には、高崎アリーナにて道主講習会、国際演武大会、そして会場を移してホテルメトロポリタン高崎にて、さよならパーティーが実施された。

国際合気道連盟の第1回総会は1976年10月に28カ国・約400名が参加し、東京で開催された。それから40年の節目となる本年は、6日間のすべての催事で69の国と地域から延べ約1万3000名が参加し、最終日にはおよそ2000名（海外からは約800名）が、演武会・講習会で心地よい汗を流した。

◆師範講習会

初日に植芝充央合気会合気道本部

道場長が講習を行った。講習では基本の技を中心に指導。転換、入身投げ、座技での第一教、横面四方投げ、肩取り第二教、半身半立ち片手取り、四方投げ（表）等を指導。最後に「転換、入身、転身、呼吸法が合わさってこれらの技になっています。全部つながっていることを意識して稽古してください」と注意点が述べられ

た。

10月1日の最後の講習では多田宏合気会合気道本部道場師範が指導。講習の前半、呼吸法を詳しく解説。

「呼吸法で感覚をコントロールして、自分の体を自分で扱えるようにしてください。振動と同化しエネルギーを高めて悠々とやること」。投げ技の指導では「相手から何かされたら対応するのではなく作り出す

稽古をしてほしい。手をもたれるのではなく、もたせるのです。もたせるから相手の体を自分の体として操作できます」。技の講話が終わると場内から感嘆の溜息がもれていた。

最終日の午前は植芝守央合気道道主による講習会。道場は溢れんばかりの参加者で埋め尽くされた。「合気道の精神を活かしながら稽古をしてください。今までの師範たちの講習をもとに基本技を中心に行ってください」と説明。正面打ち入身投げ、横面打ち入身投げ、正面打ち第一

教、横面打ち四方投げ、半身半立ち四方投げ、片手取り第二教、正面打ち小手返しなどを立て続けに指導。「相手が打つてきても、突いてきても全て同じ。これらの技はすべて入身と転換、そして呼吸法でできており、全部つながっています。そのことを意識して稽古してください」と説明した。最後に、「植芝盛平開祖が仰ったように合気道はお互いを尊重し合って稽古することが大切です。これからもこのことを心掛けてください」と結び、指導は終了した。



植芝充央道場長による講習



多田宏師範は相手の体を操作するよう指導



道主による講習では、基本技を中心に指導

◆国際演武大会



松永光日本武道館会長



富岡賢治高崎市長



植芝守央合気道道主



1200 名が演武会を観覧した



新設された国際基準の高崎アリーナ

最終日の午後、およそ1200名の観客が県内外から来場し、熱気に満ちた演武会となった。開会に際し、可児晋合気会理事が開会の辞を述べ、国歌斉唱の後、植芝守央合気道道主が挨拶を行った。

「富岡賢治市長が高崎での開催を誘致してくださり、第12回国際合気道大会が高崎市協力のもと開催できましたこと、心から感謝申し上げます。世界各国で合気道を稽古する方々の交流と融和を図るため創設された国際合気道連盟は今年、結成されて40周年を迎えます。この記念すべき年に、本大会の締めくくりとして国際演武大会が真新しい高崎アリーナにおいて、多くの国と地域のみなさんとともに開催できますことを大変嬉しく思っております。

現在、合気道は130の国と地域にその裾野を広げ、大きな輪が出来上がっております。開祖植芝盛平翁が1961年ハワイ訪問の折『合気道が日本と世界をつなぐ銀のかけ橋となる』と仰っていました。まさにその言葉通りになっております。私たちは先達の方々への感謝の念を忘れるではありません。本日、演武される

皆さまは感謝と一期一会の気持ちをお忘れずに臨んでいただき、日頃の鍛錬の成果を十二分に発揮していただきたいと思っております」

続いて富岡賢治高崎市長より「第12回国際合気道演武大会が高崎市において開催できますことに厚く御礼申し上げます。この演武会の開催にあたっては、合気会、国際合気道連盟のご協力はもとより、地元群馬県合気道連盟・荒井俊幸八段にご尽力をいただきました。関係者の皆さまに改めて御礼申し上げます。大変有意義な演武会となることを心より期待しております」との挨拶があった。

続いて山谷えり子参議院議員の来賓祝辞のあと、松永光日本武道館会長が「本日、国際合気道大会が盛大に開催されますこと、誠にめでとうございます。これからも皆さまのご努力で合気道という伝統ある武道が、国民の間や世界各国に広がり、そして多くの稽古者が立派な人間として社会に貢献することを祈念いたします」と挨拶を述べた。

演武は、IAFと全日本合気道連盟の大多数の演武者により開始された。続いて植芝充央合気道本部道場

続いて富岡賢治高崎市長より「第12回国際合気道演武大会が高崎市において開催できますことに厚く御礼申し上げます。この演武会の開催にあたっては、合気会、国際合気道連盟のご協力はもとより、地元群馬県合気道連盟・荒井俊幸八段にご尽力をいただきました。関係者の皆さまに改めて御礼申し上げます。大変有意義な演武会となることを心より期待しております」との挨拶があった。

続いて山谷えり子参議院議員の来賓祝辞のあと、松永光日本武道館会長が「本日、国際合気道大会が盛大に開催されますこと、誠にめでとうございます。これからも皆さまのご努力で合気道という伝統ある武道が、国民の間や世界各国に広がり、そして多くの稽古者が立派な人間として社会に貢献することを祈念いたします」と挨拶を述べた。

演武は、IAFと全日本合気道連盟の大多数の演武者により開始された。続いて植芝充央合気道本部道場



多田宏師範



植芝充央道場長



植芝守央道主による演武



クリスチャン・ティシェ師範 (仏)



荒井俊幸師範



IAF と全日本合気道連盟による演武



およそ 2000 名が一堂に演武を行った



チリの演武者



スイスの演武者

長が演武を披露、本部道場指導者、26の都道府県連盟、30の国と地域によるIAF加盟団体演武が続けて行われた。

中曽根弘文参議院議員による来賓祝辞の後、合気会およびIAF師範による自由演武が行われ、多田宏本部道場師範の演武が披露された。

演武会の締めくくりとして植芝守央道主の演武が行われた。初めに植芝道主は「この大会をこのように盛大に行うことができました。これは高崎市を初めてとする高崎市民の方々のご協力、そして各国・地域で日々稽古されているお集まりになった方々のおかげだと思えます。これからも合気道を研鑽しながら、大きな輪を作っていくのが我々の役目であります」と挨拶を行った後、立技、座技、半身半立での技、多人数掛けと基本的な技を中心に披露すると、会場からは盛大な拍手が送られた。



◆ さよならパーティー



IAF 新役員



さよならパーティー

場所をホテルメトロポリタン高崎に移し、さよならパーティーが行われた。およそ1000名がパーティーに参加。500名収容のメイン会場では、とても入りきれず、同じフロアの全ての控え室、廊下、ロビーにも飲食を揃え、パーティー会場とする盛況ぶりであった。

パーティーでは初めに植芝守央道主が「大勢の方々の力が結集して国際合気道大会を成功裡に終了することが出来ました。感謝申し上げます。この素晴らしい合気道の輪を大事にして、また4年後に、お会いしたいと思います」と挨拶した。続いて井沢敬国際合気道連盟新理事長、富岡賢治高崎市長、山谷えり子参議院議員、福田達夫衆議院議員が挨拶した。続いて1日の役員会で決定したIAFの新役員が紹介された後、乾杯となった。

懇親会では各々のグループの輪から合気道談話の花が咲いた。時間はあっという間に過ぎ、別れを惜しみつつも会は終了となった。

国際合気道連盟役員（2016年10月現在）

会長	植芝守央
理事長	井沢 敬
副理事長	ライフ・スニュー
事務総長	ビルコ・フリスマン
財務総長	貞国鎮
事務総長補佐	ヘンリエテ・フラーデ
理事	チャールス・マキニス
理事	ドリン・マルチス
理事	フレデリク・ヘルブロック
理事	神谷正一
専門委員	宮本鶴蔵
専門委員	横田愛明
専門委員	大澤勇人
高等委員議長	多田 宏
高等委員	山田嘉光
高等委員	浅井勝昭
高等委員	菅沼守人
高等委員	尾崎 响
高等委員	クリスチャン・ティシェ
高等委員	トニー・スマイバード

国際合気道連盟加盟国・地域（2016年現在）

1	アルゼンチン	29	マレーシア
2	オーストラリア	30	メキシコ
3	ベルギー	31	モナコ
4	ブラジル	32	モロッコ
5	ブルガリア	33	オランダ
6	チリ	34	ニュージーランド
7	コロンビア	35	ノルウェー
8	クロアチア	36	パラグアイ
9	チェコ	37	フィリピン
10	デンマーク	38	ポーランド
11	エジプト	39	ポルトガル
12	エストニア	40	ルーマニア
13	フィンランド	41	ロシア
14	フランス	42	スコットランド
15	ドイツ	43	シンガポール
16	ギリシャ	44	スロバキア
17	香港	45	スロベニア
18	ハンガリー	46	南アフリカ
19	インドネシア	47	スペイン
20	アイルランド	48	スウェーデン
21	イタリア	49	スイス
22	日本	50	台湾
23	韓国	51	タイ
24	キルギス	52	ウクライナ
25	レバノン	53	英国
26	リトアニア	54	ウルグアイ
27	ルクセンブルク	55	アメリカ
28	マカオ	56	ベネズエラ

■参加者コメント ダリアンさん（ロシア）

「このセミナーは貴重な経験になったと思います。多くの合気道師範の講習を受けることができました。沢山の方々と交流することができました。そして多くの合気道の技を学ぶことができました」

今村樹憲さん（合気道国際平和文化交流倶楽部会長）

「合気道は試合がないのでお互いが仲良くなろうという気持ちがある。武道よりも強いと思います。国際的な視点で見ても、ファミリーライクで横のつながりが強いと思います」

好評発売中

漫画家・
別府大学客員教授

田代しんたろう 著

マンガ・武道の偉人たち

武道の基礎を築いた偉人たちの生涯を描く！

マンガ・武道の偉人たち

田代しんたろう



日本武道館

B5判・302頁・本体1000円＋税

月刊「武道」誌上で好評連載中の「マンガ・武道のすすめ」。

人気を博した「武道の偉人」シリーズが単行本化！

柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・少林寺拳法・なぎなた・銃剣道の現代武道9道の普及・発展に尽力した偉人たちの生涯を通じて、各道の歴史をひも解きます。

大人も子供も楽しく読んで、歴史も学べる武道教養マンガ。



収録偉人一覧

嘉納治五郎(柔道) 高野佐三郎(剣道) 阿波研造(弓道) 双葉山(相撲)
船越義珍(空手道) 植芝盛平(合気道) 宗道臣(少林寺拳法)
園部秀雄と美田村千代(なぎなた) 鶴沢尚信(銃剣道)



編集・発行 公益財団法人日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

全日本銃剣道連盟創立 60 周年記念

平成 28 年度全国都道府県対抗銃剣道大会

沖縄県（成年の部）、香川県（少年の部）が初代王者に



成年の部決勝中堅戦＝沖縄県・中重（左）が下胴で山口県・松本を破って優勝を決める

全日本銃剣道連盟創立 60 周年記念
平成 28 年度全国都道府県対抗銃剣道大会（主催：全日本銃剣道連盟）が
9 月 24 日、日本武道館で開催された。

2015 年より国民体育大会の銃剣道競技が隔年実施となった。本大会は、国体の銃剣道競技が実施されない年に開催されることとなり、その記念すべき第 1 回大会である。

成年の部（47 チーム、選手・監督 170 名）、少年の部（29 チーム、選手・監督 106 名）で優勝を競い、成年の部は沖縄県が、少年の部は香川県がそれぞれ優勝を果たした。また、成年の部、少年の部の成績を基に総合成績を決定し、その結果、優勝が香川県、準優勝が同点で山口県と神奈川県になった。

試合はトーナメント方式、5 分三本勝負で争われた。試合時間内に勝負が決しない場合は判定により勝敗を決し（決勝戦のみ 2 分間の延長戦を 1 回実施）、勝者数の多いチームを勝ちとした。

■成年の部（3 人制・47 チーム）

各試合場のトーナメントを勝ち上

【右上】決勝先鋒戦＝橋本対十川戦。
橋本（右）が肩を突く

【右下】決勝先鋒戦＝下胴を奪う橋本（左）

【左下】決勝大将戦＝角对本村。
角が上胴を攻める



がり、ベスト4に進出したのは静岡県、山口県、大分県、沖縄県の4チーム。準決勝では、沖縄県が静岡県を3-0で、山口県が大分県を2-1でそれぞれ降して、初優勝のかかった決勝の舞台に進んだ。

▽決勝

沖縄	3-0	山口
橋本吉紘	カ下-上	十川泰志
中重勇輝	下-	松本秀雄
角康大	下上-	本村和義

先鋒戦、沖縄県・橋本と山口県・十川が対戦。開始早々、橋本が近間から十川の本銃を払い、右手で十川の身体を押すと、十川が大きくバランスを崩す。橋本はこの機を逃さず肩を決めて先制。その後は一進一退の攻防が続くが、試合時間4分、十川が鋭い上胴を決めて並ぶ。開始線に戻って3本目が始まった瞬間、飛び出して両者が互いの下胴を突くと、旗が3本揃ったのは橋本。沖縄に貴重な1勝をもたらした。

続く中堅戦。後がない山口県・松本と、ここで決めたい沖縄県・中重。試合は接近戦の様相を呈し、な

かなか一本が決まらない。そのまま5分間が終わり、延長戦に突入。延長戦開始約1分、松本が上胴に飛び込むと、この動きに反応した中重は身を低くして突きを掻き潜ると、すかさず下胴を奪って一本勝ち。この時点で沖縄県の優勝を決めた。沖縄県・角対山口県・本村の大将戦は、角が開始直後に強烈な下胴で先制すると、試合終了直前にも上胴を決めて貫禄の二本勝ち。優勝に華を添えた。

◎優勝＝沖縄県・仲里将瑠監督

「今はホッとしています。1回戦、2回戦は選手に硬さがあつたんですけど、3回戦以降は試合を重ねるごとに本来の調子を取り戻してきたと思っております。今までの大会ではベスト8の壁を破れず、私自身が勝ちたいという欲があつたんですけど、今回はいつもとは違って無心で臨めました。チームは角を中心に私生活から練習まで、彼を中心に回るようにしていました。記念すべきこの大会で初代のチャンピオンになったことを大変嬉しく思っております。今後一つひとつ稽古を重ねていきたいです」

少年の部(3人制・29チーム)

ベスト4に残ったのは宮城県、神奈川県、香川県、愛媛県の4チーム。
準決勝第1試合、香川県対宮城県

は香川県が2-1として、まず決勝進出を決めると、続く神奈川県対愛媛県は3-0で神奈川県が愛媛県を圧倒。決勝は香川県と神奈川県の対戦となった。



決勝先鋒戦＝川上对小澤。川上(右)が下胴で二本勝

▽決勝

香川	3-0	神奈川
川上立祥	上下下	小澤一誠
平田秀幸	上ノー	村田大治
山口楓太	上上ー上	猪股悠斗

先鋒戦、香川県・川上と神奈川県・小澤が対戦。開始早々、両者前に出るが、開始3秒で川上が上胴で先制。この後、小澤も前に出て、負けと下胴を返す。そして、勝負の

かかった三本目開始直後、川上が間合いを計って、下胴に飛び込むと、反応が遅れて足が動かない小澤にそのまま下胴が決まって、川上の二本勝ちとなった。

続く中堅戦、香川県の平田対神奈川県の村田の試合。平田は近間から村田の手元が下がった瞬間に上胴を決めて先制。優勝に王手をかける。追い込まれた村田が積極的に攻めに転じたその矢先、平田は冷静に村田



決勝中堅戦＝平田対村田。平田(右)がノドで優勝を決める



決勝大将戦＝山口（右）が2本目の上胴で有終を飾る



大会の様子



少年の部優勝＝香川県

の動きを見て、ノドを奪い、香川県
の勝利を確定させた。
大将戦は、香川県・山口と神奈川県・
猪股の顔合わせ。試合が動いた
のは試合中盤、一度間合いを切った
山口が上胴を決めて均衡を破る。意
地を見せたい猪股は下胴を突くフェ
イントを入れ、山口の手元が下がっ
た瞬間に上胴を奪い、勝負は3本目
へ。終盤、前に出た猪股の下胴を見
切った山口が、その動きに合わせて
見事な上胴を決めて試合終了。最終
的に全員二本勝ちという充実の内容
で香川県が優勝を手にした。

◎優勝＝香川県・石川慎也監督
「高校生大会で優勝して、この都道
府県大会に目標を絞ってきたので、
それが達成されて感無量です。選手
の実力が十二分に発揮されて、普段
通りの動きができていたので安心し
て見ていられました。選手には気持
ちを強く持て、技はもうできている
から最後は気持ちだけだ、というこ
とをずっと言ってきました。選手は
よく頑張ってくれました。来年は愛
媛国体があります。同じ四国です
し、またこの伝統を守って国体を頑
張りたいと思います」



成年の部優勝＝沖縄県

【大会結果】

■成年の部

優勝＝沖縄県

2位＝山口県

3位＝静岡県

■少年の部

優勝＝香川県

2位＝神奈川県

3位＝宮城県

■総合成績

優勝＝香川県

2位＝山口県

2位＝神奈川県



特別演武「木銃対刀の形」

木銃・パティスト・タヴェルニエ、刀・アレキサンダー・ベネット

全日本銃剣道連盟創立60周年記念式典・祝賀会 60周年を迎え、銃剣道の更なる普及発展を誓う



創立60周年を迎えた全日本銃剣道連盟の記念式典・祝賀会が、9月24日、ホテルグランドパレスで、全国から約106名の関係者が集まって行われた。

式典は18時に開会。国歌斉唱の後、酒井健全日本銃剣道連盟会長が、「60年の歴史の中で、様々な団体から温かいご支援、ご協力を頂きました。そして、皆様の銃剣道、短剣道を普及振興しようとするご努力に対して心から感謝と敬意を表したいと思います。60年が経った今、銃剣道連盟には数々の課題が存在します。その中でも特に重大なことは、会員数の増大、国民体育大会の毎年競技への復帰、必修化採用校の拡大

後、酒井健全日本銃剣道連盟会長が、「60年の歴史の中で、様々な団体から温かいご支援、ご協力を頂きました。そして、皆様の銃剣道、短剣道を普及振興しようとするご努力に対して心から感謝と敬意を表したいと思います。60年が経った今、銃剣道連盟には数々の課題が存在します。その中でも特に重大なことは、会員数の増大、国民体育大会の毎年競技への復帰、必修化採用校の拡大



松永光日本武道館会長

の3つです。いずれにしても一朝一夕に解決できる課題ではないと思っていますが、60周年のこの機会に基本問題を検討して、様々な問題点を解決して一步一步進んでいこうと思っています。連盟では設立当初から銃剣道、短剣道を普及振興して、国民の体力増進に寄与するともに、すばらしい日本人を作る、という設立の趣旨を掲げております。これにもう一度しっかりと立ち返って、日々精進していきたいと思います」と式辞を述べた。

続いて日本武道館松永光会長が来賓を代表して祝辞に立った。

「私が中学生の時代には銃剣術の授業があり、心と身体を鍛えるために一生懸命に励みました。そういった経験もあって、銃剣道に対しては非常に思い入れがあり、大変素晴らしい、心身を鍛えられる武道だと思っています。私は日本武道館の会長をしておりますが、武道館の広い会場を武道修業者で一杯にして、武道を盛んに、もっと銃剣道を盛んにして日本の青少年を強くすることが大事だと思っています。今後、銃剣道がより一層盛んになることを期待申し上げます」

げ、私のご祝辞と致します」

その後、来賓紹介、祝電の披露があり、銃剣道連盟の活動に対する協力・支援を行った4団体に対して感謝状の贈呈と、連盟の事業遂行にあたり、顕著な功績を上げた会員1名の表彰が行われ、式典は閉幕した。

その後、会場を移して祝賀会となった。まず、酒井健会長が挨拶し、東京都知事である小池百合子東京都銃剣道連盟会長がお祝いの言葉を述べた後、乾杯となった。出席者たちは思い思いの話し盛り上がり、それぞれが連盟の60周年と銃剣道の更なる発展に思いを馳せた。懇談の後、鈴木健副会長がお礼の言葉で締め括り、会は盛会裡に終了した。



小池百合子東京都銃剣道連盟会長



創立60周年を祝して乾杯



感謝状の贈呈

◆連盟創立60周年を振り返って 酒井健会長に聞く

連盟60周年を迎えての心境、今後の展望・課題について酒井健会長にお話を伺った。

「60年、着実に進歩を遂げてきたのですが、今思うのは、まだまだ日本国民に銃剣道が理解されていないということ。それは一義的には我々銃剣道連盟の大きな失敗だと思っています。」

銃剣道は先の大戦で最も悪いイメージを持たれてしまっていますが、中学校でも授業を行える立派な武道としての立場を与えられて

いますから、もっともつと自信をもって普及振興をしていかなければならないと改めて思っています。

特に、これからは自衛隊以外にも銃剣道を広めたいと考えています。そこに力を入れないと銃剣道連盟は廃れていくし、自衛隊におんぶにだっこでは駄目なんだという認識を持ちました。

記念式典の挨拶でも述べたように、銃剣道連盟には重大な課題が3つあります。その解決に向けて、全国津々浦々に銃剣道の拠点としてクラブ・道場を作りたいと思っています。柔道や剣道の子供たちのクラブ・道場と同じくらいに全国に根を張りたいのです。そこでは、技を教えることはもちろん、日本人の心や、様々な精神的要素を教えます。それが将来にわたって武道を国民に理解してもらって、武道を子供たちに学ばせたいと思っていただけのことに繋がります。

だから、数を増やすだけではなく、本当に技と心を教えるクラブ・道場を作っていきたいですね」



酒井健全日本銃剣道連盟会長

好評発売中

絵と文 中村 麻美 (なかむら まみ)

F4判・上製・98頁・定価(本体2700円+税)

伝えたい日本のところ



中村 麻美 (なかむら まみ) 画家・挿画家。三重県津市生まれ。県立津西高校、津田塾大学卒。大学在学中、日本画教室(田中峰雪氏に師事)にて作画の基礎を学ぶ。英語個人教授業、第十八代ミス日本グランプリ、NHK BSニュースキャスター、絵本翻訳業を経て、絵画を志す。大和草、茶花などを題材とした日本画の本画を制作し、書籍、雑誌、新聞、テレビ番組などで歴史もの、武人画、創業者などの挿画を手がける。また、原作新聞小説

挿画を描いたNHK大河ドラマ『天地人』放映の平成十九年以降は、歴史上の人物の本画作品制作にも新境地を開いている。代表作に『天地人丸紋絵巻』(兼続お船ミュージアム所蔵)、『斎王』(三重県立斎宮歴史博物館所蔵)など。

月刊「武道」の美しいカラー表紙絵の中から45点を精選。岩絵具で描いた日本画と解説文で「日本のところ」をお届けします。

「ひとに愛されたい、必要とされたい、社会をよくするため役立ちたい。よき人間でありたい、そしてみんなが幸せであってほしい」——こうした万国共通の願い、祈りを育て、磨くためにも、確かな手がかりとなるすばらしい逸話ばかりです。(本書「あとがき」より)

目次

- 一 かしこい小僧さん
- 二 ひより越え
- 三 天の石屋戸
- 四 巖流島の決闘
- 五 太田道灌と少女の歌
- 六 三本の矢の教え
- 七 山中鹿介——我に七難八苦を与えたまえ
- 八 良寛さまと笛
- 九 民を慈しむ仁徳天皇
- 十 中江藤樹——母への葉
- 十一 夫の危機を救う弟橘媛
- 十二 良子斎王——別れの御櫛
- 十三 桜井駅の別れ
- 十四 八俣の大蛇
- 十五 川中島の戦い——謙信と信玄
- 十六 紅梅内侍と鶯の宿
- 十七 新羅三郎義光——笙の秘曲を授ける
- 十八 小松姫——夫の居城を守りぬく
- 十九 青の洞門
- 二十 鍋島直茂と接ぎ木
- 二十一 小林虎三郎——米百俵の精神
- 二十二 島津義弘——関ヶ原敵中突破
- 二十三 光明皇后——千人のからたを洗う
- 二十四 城戸俊三——勝利を捨てて愛馬を救う
- 二十五 松坂の一夜
- 二十六 柳に飛びつく蛙
- 二十七 称名寺『青葉の楓』
- 二十八 神武天皇ご東征
- 二十九 本多忠朝とサンフランシスコ号
- 三十 つるべの朝顔
- 三十一 野中兼山——海に捨てたはまぐり
- 三十二 鉢の木
- 三十三 因幡の白うさぎ
- 三十四 堪忍のわび証文
- 三十五 橘曙覧『独楽吟』
- 三十六 南総里見八犬伝
- 三十七 吉田松陰の志
- 三十八 鳥居強右衛門の勇氣
- 三十九 明智光春——譽れの湖水渡り
- 四十 赤穂義士の討ち入り
- 四十一 頼朝を助けた梶原景時
- 四十二 真田幸村——大坂の陣
- 四十三 天照大御神と美し国・伊勢
- 四十四 和田勇——祖国にオリンピックを招致
- 四十五 長岡花火『白菊』



編集・発行 公益財団法人日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

(翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット)

(B5判・上製・DVD付・336頁)

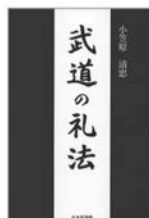


武士道に学ぶ

皇學館大学教授

菅野 覚明 著

(四六判・上製・344頁)



武道の礼法

弓馬術礼法小笠原教場三十一世宗家

小笠原清忠 著

(四六判・上製・278頁)



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

(B5判・並製・236頁)



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

(四六判・上製・370頁)



<増補版> 私も武道経験者です

月刊「武道」記者

吉野 喜信 著

(四六判・上製・326頁)



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

(四六判・上製・370頁)



大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

(四六判・上製・376頁)



武道・ スポーツの真髄

スポーツドクター

辻 秀一 著

(四六判・上製・248頁)



武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

(四六判・上製・410頁)



武の素描

埼玉大学教授

大保木輝雄 著

(四六判・上製・220頁)

第59回全日本実業団剣道大会

パナソニック（ES門真）

が実業団日本一に輝く



決勝次鋒戦＝パナソニック・吉村（右）の面が決まる



決勝中堅戦＝パナソニック・山田（右）が攻勢を見せた

第59回全日本実業団剣道大会（主催Ⅱ全日本実業団剣道連盟）は、9月19日に日本武道館で開かれ、全国から栄光をめざして鎧を削る実業団の精鋭、歴代最多の367チームが集まり、実業団剣道日本一が争われた。

決勝は、パナソニック（ES門真）と富士ゼロックス東京（本社）が対戦。パナソニック（ES門真）が勝者数2―1で勝利して、実業団日本一に輝いた。

試合は、5人制の団体戦で行われ、試合時間は1回戦から準々決勝までが3分間、準決勝と決勝は4分間で、時間内に決しない場合は引分けとした。また、勝敗は勝者数により決められ、勝者数が同数の場合は総本数で、さらに総本数が同数の場合は、時間無制限による代表戦（一本勝負）で争われた。

◆準々決勝

準々決勝に進んだのは、パナソニック（ES門真、東レ（滋賀）、NTT東日本（東京）、ALSO K（東京）、富士ゼロックス（本社）、JR東海（本社）、富士ゼロックス東京（本社）、日通商事（本社）の8チーム。昨年優勝の西日本シティ銀行（本店）は6回戦で敗退した。

前回優勝チームとの接戦を制したパナソニック（ES門真）と東レ（滋賀）の対戦。先鋒戦は、東レ・榎原の二本勝ち。続く、次鋒戦、中堅戦は巻き返しを図るパナソニック・吉村と山田がそれぞれ面で一本勝ち。副将戦は引分けとなり、勝敗は大将戦へと持ち越された。大将戦、試合序盤にパナソニック・足達が飛び込

んで鋭い小手を決めて一本。その後、両者ともに一本を決めきれず、足達の一本勝ちで試合は終了。パナソニック（ES門真）が3―1で勝利した。

ALSO K（東京）とNTT東日本（東京）の対戦は、先鋒戦でNTT東日本・渡部が面で先制するも、ALSO Kが次鋒戦から大将戦まで快進撃を見せ、4―1で快勝。ALSO Kが8年ぶりに準決勝進出。

富士ゼロックス（本社）とJR東海（本社）の対戦は、中堅戦が終わって1―1と同点。勝負のかかる副将戦、富士ゼロックス・北川が面で一本勝ち。続く、大将戦は引分けとなり、富士ゼロックスが2―1で勝利し、2年ぶりのベスト4進出を決めた。

富士ゼロックス東京（本社）と日通商事（本社）の対戦は、次鋒戦まで引分け。続く、中堅戦。富士ゼロックス東京・宮山が小手で二本勝ち。さらに、副将戦では富士ゼロックス東京・新海が小手、そして大将戦では野村が胴で一本勝ち。3―0で勝利した富士ゼロックス東京は初の準決勝進出を果たした。

◆準決勝

パナソニック
（ES門真） 2―1
（東京） ALSO K

○日下達基 コー 篠崎幸人
吉村大地 ー 小曾納匠

○山田侑希メコー 藤江浩二
笹森雄貴 ー 福田修一郎

足達翔太 メーメコ 遅野井瑞広○

先鋒戦、試合中盤にパナソニック・日下がALSO K・篠崎の手上がった一瞬の隙を逃さず小手を



準決勝先鋒戦Ⅱパナソニック・日下（左）が幸先良く小手で先制

決めて一本勝ち。続く、次鋒戦は引分け。中堅戦、開始わずか30秒にパナソニック・山田がALSO K・藤江から引き面を奪う。さらに終盤、山田は藤江の面に合わせて、小手を決めて二本勝ち。副将戦、後がないALSO Kだったが、猛攻虚しく引分けで試合終了。大将戦は、ALSO K、遅野井が二本勝ちを収めるも、結果は2―1でパナソニック（ES門真）が決勝進出を決めた。



準決勝中堅戦Ⅱパナソニック・山田（奥）が攻める

◆準決勝

富士ゼロックス 1-1 富士ゼロックス
東京(本社)

小室俊介 — 東郷知大

○太田涼介 コー 岡北真輔

宮山俊一 — 上原祐二

新海幹之 — ド 北川清太○

野村慶徳 — 岩川 力

代表戦

○野村慶徳 コー 北川清太



準決勝代表戦＝富士ゼロックス東京・野村(右)が代表戦を勝ち取った

系列会社である富士ゼロックス東京(本社)と富士ゼロックス(本社)

が対戦。合同稽古を行うこともある両チームは、代表戦までもつれこむ接戦を繰り広げた。

先鋒戦は引分け。次鋒戦、慎重な試合運びを見せる両者だったが、残り1分を切ると試合が動く。富士ゼロックス東京・太田は、富士ゼロックス・岡北の面に合わせて、鋭い小手を打ち込んで一本勝ち。続く中堅戦は引分け。さらに副将戦、開始早々激しい打ち合いになる。富士ゼロックス東京・新海の上段を警戒する富士ゼロックス東京・北川。残り時間1分を切ると、上段に構えた新海に北川が逆胴を放ち一本勝ち。大將戦が引分けとなると、代表戦へともつれこんだ。

代表戦は、富士ゼロックス東京・野村と富士ゼロックス・北川が指名された。

試合開始50秒、野村が面から小手に素早く技を変え、北川から小手を奪う。野村の一本勝ちとなり、試合は終了。代表戦を制した富士ゼロックス東京が初の決勝進出を果たした。

◆決勝

パナソニック 2-1 富士ゼロックス
(ES門真) 東京(本社)

日下達基 コード 小室俊介

○吉村大地 メー 太田涼介

○山田侑希コメー 宮山俊一

笹森雄貴 — 新海幹之

足達翔太 — メ 野村慶徳○

引分けへと持ち込んだ。

次鋒戦、パナソニック・吉村と富士ゼロックス東京・太田の対戦。試合中盤、太田が間合いを詰めて胴を狙ったところを、吉村が冷静にいなし、引き面を打ち込んで一本勝ち。

中堅戦、試合開始早々に全日本選手権出場経験のあるパナソニック・山田が素早く攻める。富士ゼロックス東京・宮山は、山田の攻めに対処できず小手を奪われる。勢いに乗った山田は、試合中盤にさらに引き面を決めて二本勝ち。パナソニックが2-0とリードを広げた。

副将戦、ここで勝ちが欲しい富士

先鋒戦、残り30秒、パナソニック・日下が富士ゼロックス東京・小室から面返し胴を奪われ先制され、後がない日下が必死に攻める。試合終了直前、日下の思い切った放った鋭い小手が小室に決まって一本。試合を



決勝先鋒戦＝パナソニック・日下(右)対富士ゼロックス東京・小室

ゼロックス東京・新海が、上段から果敢な攻めを展開。面や小手、逆胴など多彩な技を繰り出す。一方のパナソニック・笹森は、新海の技を捌きながら、間合いを詰めて、攻めに転じた。しかし、両者攻め切れないまま引分け。パナソニック（ES門真）の優勝が決定。大將戦では富士ゼロックス東京・野村が中盤に面を決めて一矢報いるも、パナソニック（ES門真）が2―1で初優勝。パナソニック陣営としては3度目の優勝となった。また、大会最優秀選手には山田侑希選手が輝いた。

◎優勝Ⅱ

パナソニック（ES門真）・酒井順也監督

「非常に嬉しくホッとしています。去年まで攻めているつもりが攻め切れていない時がありました。今年は先に一本を取っていても、とにかく攻め続けるということを序盤からやりました。決勝戦も、しんどい戦いではあったと思うんですけども、みんなが攻めるということ徹底してくれました。日頃の稽古がまた次に繋がると思います。2連覇ということよりも、もう一度、一から出直したいと思います」

◎最優秀選手賞Ⅱ

パナソニック（ES門真）・山田侑希選手



「今年は先輩に引っ張ってきてもらい、そこに先輩も加わって、新たなチーム編成で1年間やってきました。僕自身、身を引き締めて今日に臨みました。厳しいリーグだったので、本当に勝って良かったと思います」

す。先輩・後輩がつないでくれて、この結果を残すことができたと思っています。本当に感謝の思いを形にできました。決勝では攻めて勝つという心がけでやってきたことが、うまく形にはまったと思います。全日本実業団では優勝を目標にしていたのですけれど、さらに2連覇、3連覇を目標に掲げながら、また近日、国体と全日本選手権が控えているので、そこでも攻める剣道を意識して頑張っていきたいと思います」

【大会結果】

- ▽優勝Ⅱ パナソニック（ES門真）
- ▽2位Ⅱ 富士ゼロックス東京（本社）
- ▽3位Ⅱ AL SOK（東京）、富士ゼロックス（本社）
- ▽敢闘賞Ⅱ 東レ（滋賀）、NIT 東日本（東京）、J R 東海（本社）、日通商事（本社）



決勝副将戦Ⅱ パナソニック・笹森（右）
対 富士ゼロックス東京・新海



決勝大將戦Ⅱ パナソニック・足達（右）
対 富士ゼロックス東京・野村



優勝＝パナソニック（ES門真）



平成 28 年度全日本学生柔道体重別選手権大会



女子 78kg超級決勝＝朝比奈沙羅（左）が初優勝



男子 100kg超級決勝＝小川雄勢（左）が連覇達成



男子 60kg級決勝＝林浩平（上）の内股返

▽60 kg 級
決勝は、昨年準優勝の林浩平（国士館）と初進出の藤阪泰恒（國學院）の顔合せ。左組の林と右組の藤阪のケンカ四つ。序盤、林は積極的に攻めるが、徐々に藤阪が攻めに転じる。開始2分10秒、藤阪が林に内股を仕掛ける。堪えた林はすかさず

▽66 kg 級

決勝は、関東王者の田川兼三（筑波）と関東2位の末木貴将（筑波）の同門対決。互いに手の内を知り、組んでから技を出せない。後輩の田川は盛んに足を出して小外刈で攻める。試合終盤、末木が場外で指導1を受けて、そのまま試合終了。積極的に攻め続けた田川が初制覇。

内股返で有効を奪う。その後は、林が指導を2つ受けるが、藤阪の猛功を凌ぎ切って試合終了。林は嬉し涙で初優勝を勝ち取った。
◎優勝Ⅱ林浩平（国士館）
「2年連続2位ということもあって、本当にすごく嬉しかったです。体重をしつかり落として、体が戻った状態で試合ができました」

男子

全日本学生柔道体重別選手権大会（男子35回・女子32回）が10月1日・2日に日本武道館で開催され、男女各7階級で学生日本一を目指して熱戦が展開された。試合時間は男子5分間、女子4分間で争われた。

**小川雄勢（男子100kg超級）
朝比奈沙羅（女子78kg超級）
が制す**

▽73kg級

決勝は、前回3位の竹内信康（筑波）と島田隆志郎（國學院）の対戦。

ともに右組の相4つ。島田は竹内の奥襟を掴んで圧をかけていく。竹内

が首抜きで指導1。さらに、終盤で、指導1を重ねる。残り30秒、後がな

い竹内は、島田に内股を決める。技有を奪った竹内はそのまま島田を抑

え込んで合技一本。竹内が土壇場で逆転劇を見せて初優勝した。

▽81kg級

決勝は前回覇者の佐藤正大（国士館）と山本幸紀（筑波）の対戦とな

った。連覇を狙う佐藤は序盤から気

合い十分に攻めに出る。しかし、決

め手に欠き、拮抗した試合となる。試合終盤、山本が消極的として指導

1を受けると試合終了。佐藤が僅差で辛勝。2連覇を達成した。

▽90kg級

決勝に勝ち上がったのは、全日本ジュニア連覇の向翔一郎（日本）と

大橋賢人（筑波）。慎重な組手を見せて試合は膠着する。消極的な両者

がそれぞれ指導1を受ける。さらに、組まない大橋に指導1。再び両

者が指導1を受けると、指導3で追いこまれた大橋。攻撃の手を緩めな

い向は、内股で相手を崩しにかか

る。防戦一方の大橋は、場外際に逃

げるが、向が大橋の帯を持って、釣り込むような形で投げると、大橋は

たままらず畳に落ちる。この移腰が決まって一本勝ち。向は初優勝に輝い

▽100kg級

決勝は、ウルフアロン（東海）対前回準優勝の後藤隆太郎（慶應義

塾）の対戦。1分が経過し、組まない両者に指導1。さらに1分後、後

藤に積極的戦意が欠けるとしてさらに指導1。ウルフが圧をかけて、組

手を優位に運ぶ。残り30秒、後藤が場外際で背負投を仕掛ける惜しい場

面があつたが、そのまま試合終了。ウルフは僅差で嬉しい初優勝を手にした。

◎優勝Ⅱウルフアロン（東海）「勝ち上がりは、満足できる試合ができましたが、決勝戦はちよつと不

甲斐ない試合になってしまった」

▽100kg超級

決勝には前回優勝の小川雄勢（明治）と影浦心（東海）が勝ち進んだ。両者ともに左組。小川は影浦の奥襟

を持って攻めに出る。一方の影浦はなかなか攻め切れない。1分20秒経過、消極的な影浦に指導1が入る。

その後、影浦が必死に健闘するも、時間切れとなって試合終了。小川が連覇した。

◎優勝Ⅱ小川雄勢選手（明治）「大学に入ってから、組手、技、体力に関して、自分でもわかるくらい結果が伴ってついてきていると思います。組み合せて、そこからあと一

歩投げにいくことができていないので、今後の練習でやっていきたいと思

います」



73kg級決勝＝竹内信康（前）が内股で技有



90kg級決勝＝向翔一郎（上）の移腰が決まる



100kg級決勝＝ウルフアロン（左）対後藤隆太郎

女子

▽48kg級

決勝では岡本理帆（国士館）と前回覇者の小山亜利沙（帝京）が対戦。

ともに左組。小山が積極的に技を仕掛けて前に出る。組まない岡本が指導1を受ける。ここで岡本が起死回生の腰車を放つと小山が畳に落ちて技有。さらに、勢いに乗った岡本は豪快な大腰を決めて一本勝ち。岡本は4年で初タイトルを獲得。学生最後の集大成を見せた。

◎優勝Ⅱ岡本理帆（国士館）

「あまり緊張せず思い切りできたので良かったです。どの試合も強い選手ばかりだったので、一つ一つ集中してやろうと思っていました」

▽52kg級

決勝は、米田愛理子（山梨学院）と全日本ジュニア覇者の立川莉奈（福岡）の顔合せ。米田が右組、立川が左組のケンカ四つ。試合では両者ともに良い形を作れず、一進一退の攻防を見せる。残り30秒、米田は指導2、立川は指導1。ここで試合が動く。リードされている米田が果敢に相手を崩し、内股を仕掛けると、立川は堪えきれずに一回転して一本。米田は初優勝を飾った。

▽57kg級

決勝は、2年連続3位の出口クリスタ（山梨学院）対鶴岡来雪（山梨学院）の同門対決。出口は開始まもない段階で、鶴岡に巴投を決めて技有、そのまま抑込みにかかる。15秒が経過し、一本が決まる。しかし、協議により一本が取り消され、技有と有効1つに訂正されると試合は再開。仕掛けの早い出口が大外刈を決めると技有で合技一本。出口は悲願の初優勝を果たした。

▽63kg級

決勝は、ユニバーシアード金メダルの津金恵（筑波）と昨年優勝の渡邊聖未（早稲田）との対戦。奇しくも昨年同様の組合せとなった。開始1分経過、津金が渡邊から内股で技有を奪う。その後、消極的な渡邊が指導1を受ける。津金も場外で指導1を受けると試合終了。津金が優勝で昨年の雪辱を果たして初制覇。

◎優勝Ⅱ津金恵（筑波）

「大学に入ってから初めて日本一がとれたので嬉しかったです。同じ相手に2度負けることは許されないうと思いました」

▽70kg級

決勝に進んだのは、宇野友紀子（環太平洋）と前回準優勝の佐俣優依（帝



48kg級決勝＝岡本理帆（左）が攻める



52kg級決勝＝米田愛理子（左）が初制覇



57kg級決勝＝出口クリスタ（左）が大外刈で攻める



63kg級決勝＝津金恵（奥）の豪快な内股



70kg級決勝＝宇野友紀子（右）対佐佐優依

京）。宇野は右組、佐優は左組のケンカ四つ。両者に指導1が入ると、組手争いが激化する。先制したのは宇野で、佐優を抑え込んで腕挫十字固に入る。しかし、佐優はなんとか持ちこたえる。試合が再開し、指導1を受けた佐優が必死に攻めに出る。しかし、宇野に試合をコントロールされたまま試合終了。宇野が僅差で初優勝した。

▽78kg級

決勝は山中満紀（山梨学院）対鈴木伊織（環太平洋）。鈴木が積極的な足を使って主導権を握るも、徐々に山中が大技を狙いに出る。鈴木が攻撃の意思なしとして指導を2つ重ねる。山中は最後まで鈴木に反撃の

機会を与えないまま試合は終了。山中が初優勝を決めた。

▽78kg超級

決勝は、ユニバーシアード金メダルの朝比奈沙羅（東海）と前回3位の月波光貴穂（帝京）の対戦。右組の朝比奈、左組の月波のケンカ四つ。朝比奈がフエイントをかけるなど積極的な動きは見られたが、試合は最後まで動かず延長戦へ。

延長1分30秒、朝比奈が支釣込足、払巻込、内股と間髪入れずに繰り出し、月波を畳に叩きつけて技有。朝比奈が78kg超級を初制覇した。

◎優勝Ⅱ朝比奈沙羅（東海）

「6カ月ぶりの公式試合で、どこまでやれるか弱気な部分はありました。東京オリンピック開催まで4年を切っているので、しっかり計画を立ててやれることをやりたいです」



【大会結果】

■男子

- ▽60kg級①林浩平（国士舘）②藤阪泰恒（國學院）③五味佳将（日本体育、宮之原誠也（国士舘）
- ▽66kg級①田川兼三（筑波）②末木貴将（筑波）③浅利昌哉（東海、渡邊風吹（東海）
- ▽73kg級①竹内信康（筑波）②島田隆志郎（國學院）③村上洋平（東海、福岡克仁（日本）
- ▽81kg級①佐藤正大（国士舘）②山本幸紀（筑波）③淵原慎一（日本体育、洪川大也（近畿）
- ▽90kg級①向翔一郎（日本）②大橋賢人（筑波）③江畑丈夫（国士舘、古居頌悟（東海）
- ▽100kg級①ウルファロン（東海）②後藤隆太郎（慶應義塾）③渡邊大樹（東海、安達裕助（日本）
- ▽100kg超級①小川雄勢（明治）②影浦心（東海）③尾原琢仁（筑波、西尾徹（天理）

■女子

- ▽48kg級①岡本理帆（国士舘）②小山亜利沙（帝京）③渡名喜風南（帝京、有野涼（龍谷）
- ▽52kg級①米田愛理子（山梨学院）②立川莉奈（福岡）③渡邊貴子（帝京、飯塚貴恵（東京学芸）
- ▽57kg級①出口クリスタ（山梨学院）②鶴岡来雪（山梨学院）③月野珠里（山梨学院、谷川美歩（山梨学院）
- ▽63kg級①津金恵（筑波）②渡邊聖未（早稲田）③土井雅子（環太平洋、能智亜衣美（筑波）
- ▽70kg級①宇野友紀子（環太平洋）②佐佐優依（帝京）③青柳麗美（環太平洋、長内香月（山梨学院）
- ▽78kg級①山中満紀（山梨学院）②鈴木伊織（環太平洋）③山口凌歌（桐蔭横浜、西田未来（東海）
- ▽78kg超級①朝比奈沙羅（東海）②月波光貴穂（帝京）③山本沙羅（大阪体育、滝川真央（日本）

日本武道館の単行本

著者の80年の生涯にわたる 剣道修錬を集大成した 本格的剣道修行論

好評発売中!



（写真提供：『剣道時代』）

剣の清流

全日本剣道連盟相談役・剣道範士九段

堀籠 敬藏 著

（四六判・上製・344頁）

目次

- 第一章 剣道
- 第二章 剣道の歴史
- 第三章 修錬・先人に学ぶ
- 第四章 剣道の極意
- 第五章 武道における「礼」
- 第六章 剣理
- 第七章 指導者としての心構え



編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

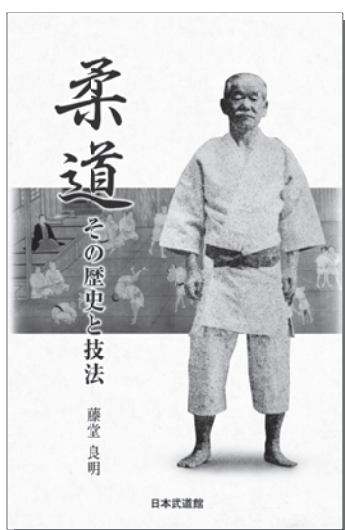
TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

好評発売中!

柔道 その歴史と技法

筑波大学体育系教授 藤堂 良明 著

「原点に帰る」には、「原点を知る」必要がある。



四六判・上製・330頁・本体2,400円＋税

柔道の歴史を振り返りつつ、その技法が、どのように形作られてきたのかを、丁寧に解説しています。



武道の稽古は、技を通して精神を磨き、やがて社会のためになるという教育の道でもあった。時代は移り変われども、日本の伝統に培われた「武道としての柔道」を見失わないでいただきたいと願うものである。(本書「あとがき」より抜粋)

目次

- | | | |
|---|---|--|
| 第一章 組討ちの起こりと技法
体術の起こりと技法
組討ちの体系化と技法 | 第三章 講道館柔道の歴史と技法
講道館柔道の創設と技法
嘉納治五郎の乱取開発
講道館柔道の行事と整備
警視庁武術大会の勝利と技法
学校体操への柔道導入の試み
学校における柔道普及の実態
高専柔道の起こりと技法
嘉納治五郎の他武道への接近
精力善用国民体育の創案と技法
全日本柔道選士権大会の開催と技法 | 第四章 第二次世界大戦後の柔道復活と技法
第二次大戦中の柔道界と技法
第二次大戦後の柔道禁止と復活
格技柔道から武道柔道へ
女子柔道の競技化と技法 |
| 第二章 柔術諸流派の歴史と技法
竹内流腰廻
関口新心流柔術
起倒流柔術
起倒流柔道
直信流柔道
真之神道流柔術
天神真楊流柔術 | 第五章 柔道技法の変遷と国際化への課題
柔道技法の変遷と特徴
柔道の国際的普及と発展
段位制度の国際比較
柔道の国際化と課題 | |

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158



月刊「武道」は、全国の書店で販売しています。